

# 山都町地域支え合いセンター 活動報告



～つなぐ つなげる つながり続ける～

山都町  
山都町社会福祉協議会

## 発刊によせて

平成28年熊本地震の発生から早5年が経過しようとしています。改めまして犠牲になられた多くの方々に心から哀悼の意を表します。

本町では、被災された方々が一日も早く元の生活に戻れるよう山都町社会福祉協議会内に山都町地域支え合いセンターを設置し、被災者への生活支援や相談支援など物心両面の支援を展開してまいりました。

直接被災された方々を中心に、町内すべての方々が被災者であるという考えのもと、お一人おひとりに寄り添った声掛けや見守り活動を行い、その中で明らかになった生活課題の解決解消のため、関係団体と連携し対応してきました。また、被災された高齢者の孤立化防止のための地域交流サロンの開催など心の復興にも重きを置き、地域福祉の骨幹である共助の取り組みにも力を入れてきました。

地震からの復旧・復興の兆しも見えはじめ、山都町地域支え合いセンターの役割も最終局面を迎えつつある中、これまでの取り組みを風化させないよう、また、そこから得た教訓を次世代に継承し、今後起こりうる大規模な災害に備える一助となるよう、記録誌を作成いたしました。

令和3年度以降、山都町地域支え合いセンターの看板は下ろしますが、町並びに山都町社会福祉協議会の事業としてこれまでと変わることない支援を続けてまいります。

最後に、これまで山都町地域支え合いセンターをご支援いただきましたすべての皆さまに感謝するとともに、本町が真に復興する日まで一歩ずつ着実に前進するよう努めてまいります。

令和3年1月

山都町社会福祉協議会

会長（山都町長） 梅田 穰



応急仮設住宅（現 原団地）

## 〈目次〉

熊本地震と山都町 .....	3
山都町地域支え合いセンターについて .....	4
個別支援 活動内容 .....	6
地域支援 活動内容 .....	9
ボランティア団体との連携 .....	14
アンケート調査 .....	18
会議・研修 .....	21
復興イベント .....	26

### 原区 大城正人さんの話し

#### ●4月14日 前震発生

地震のときは社（こそ）で通夜の最中だった。震れがひどかったので、お棺を外の軽トラに載せて安置した。

家に帰ると、瓦が落ちていたり、食器やテレビが落ちたりしていたが、家自体にはそんなに被害がなく、家で寝た。他の家にもそんなに被害はなかった。

#### ●4月15日 もう一度通夜

#### ●4月16日 本震発生

通夜が終って、家に帰ってテレビを見ていたら再び大きな震れにみまわれた。停電したが、10分くらいしたら電気は点いた。壁にひびが入ったり、柱がずれたりしていた。とくに、基礎の被害が大きかった。基礎は他の家でも被害があっていた。

地区の人はほとんど公民館に来ていた。布団を持って来られる人は持って来ていた。消防の4人が安否確認と避難できないお年寄りの人を公民館に連れて来た。

道路はでこぼこだったが、通れないことはなかった。

公民館では寝るどころではなかった。公民館まわりで1週間くらいは2トントラックで車中泊をした。

#### ●16日 昼

町の斎場で葬式に出席。尾崎の人は、中島小の体育館に避難し、夜には杉木の公民館に移動。尾崎以外の人は公民館およびその周りで避難していた。

16日の朝には役場からパンや物資が届いた。

議員に電話して見に来てもらった。

山から引いている水道が壊れ水が出なかった。

中島や他地区の人がボランティアで1ヵ月くらい炊き出しをしてくれた。

数日経って、自分の仕事に行くようになった人もいたが、3～4日目ぐらいに、皆を寄せて水道の復旧と屋根へのブルーシートかけを皆でやろうということにした。3～4日かけて水道を復旧させた。水が通って公民館でご飯が炊けるようになった。

社は被害が少なく、また水も出ていたので、風呂をもらいに行った。

4月20日くらいに町長のところへ役員と行って仮設住宅のことなどを話し合った。仮設住宅は5月から工事が始まって7月1日には入居できた。

90歳の母がいるが、地震から4～5日で大矢荘に入所できた。

# 熊本地震と山都町

## 山都町の被災状況

前震：平成28年4月14日（木） 21：26 震度5強（マグニチュード6.5 最大震度7）

本震：平成28年4月16日（土） 1：25 震度6弱（マグニチュード7.3 最大震度7）

1. 人的被害：関連死 3名

2. 避難状況

・最大 4月17日（日）午前4時 避難所39か所 避難者数 2,179名

・延べ避難者数 9,732名（6月20日まで 夜間避難者数）

3. 住家の被害 783戸（平成30年10月17日現在）

≪内訳≫全壊 16戸 大規模半壊 44戸 半壊 203戸 一部損壊 520戸

4. ライフラインの被害状況

(1) 電気 停電最大8日間（蘇陽地区滝下）

(2) 水道 給水戸数4,812戸

・被害時最大（断水+濁水）4,063戸

（最大時 断水2,473戸 濁水3,732戸）

※断水4月24日（日）解消 濁水5月2日（月）解消

5. 被災後の生活状況

(1) 応急仮設住宅入居：6世帯

(2) みなし仮設入居：13世帯

(3) その他：公営住宅入居 納屋等の改修 住宅修理 親類宅

## 山都町と地域支え合いセンターの主な動き

平成28年4月14日（木）

○災害対策本部設置

平成28年4月16日（土）

○指定避難所運営（千寿苑）

（山都町社会福祉協議会へ委託 ～6/11まで）

平成28年4月18日（月）

○小学校・中学校・高等学校の休校（～4/24まで）

平成28年4月21日（木）

○山都町災害ボランティアセンター開所（社会福祉協議会）

（8月31日閉所）

平成28年4月25日（月）

○激甚災害の指定

平成28年5月24日（火）

○みなし仮設住居入居（町内8世帯、町外5世帯）

（～H29年5/1まで）

平成28年6月

○支え合いセンター設置説明（県主催）

豪雨災害 6月20日（月）～21日（火）

平成28年7月1日（金）

○応急仮設住宅入居（原地区6世帯）

平成28年8月12日（金）

○山都町職員等勉強会

平成28年9月16日（金）

○災害対策本部の廃止（嘉島町・甲佐町と同時）

○平成28年熊本地震復興推進本部の設置

平成28年10月1日（土）

○地域支え合いセンターを山都町社会福祉協議会に設置

（町からの委託）

平成28年10月

○地域支え合いセンター生活相談支援員養成講座受講

（順次全職員受講）

平成28年11月28日（月）

○山都町地域支え合いセンター事業に伴う町行政等連携会議

平成28年12月～2月

○被災地視察研修

宮城県 福島県 新潟県

平成29年3月31日（金）

○り災証明交付締切

平成29年4月13日（木）

○応急修理申請書締切

平成29年5月1日（月）

○公費解体申請締切

平成29年9月29日（金）

○熊本地震被災者の今後の住まいに係る意向調査

（半壊以上265戸）（～10/20まで）

平成30年1月15日（月）

○熊本地震被災者個別相談会開始（～1/24まで）

平成30年2月27日（火）

○山都町内各種団体との連携会議

平成30年6月30日（土）

○応急仮設終了（町営住宅化）

## 山都町地域支え合いセンターについて

熊本地震で被災された方々の生活再建に向けた支援を行うため山都町から委託を受け、社会福祉協議会内に「山都町地域支え合いセンター」が設置され、平成28年10月より運営開始しました。地域支え合いセンターは、応急仮設住宅やみなし仮設住宅で生活を余儀なくされている方への支援が中心ですが、本町では、町民すべての方々を被災者とみなし安心・安全な日常生活を支えるため、又、独りにならない地域づくりを目指した支援活動にあたりました。

### 地域支え合いセンター 理念

- 被災者をつながる
- 被災者・地域住民をつなげる
- 被災者の課題を支援機関・団体へつなぐ

### 山都町地域支え合いセンターの概要

#### 事業目的

被災者の方々の生活再建に向け、安心した日常生活を支えるために、見守りや生活支援、地域交流の促進等の総合的な支援体制を構築する。

#### 主な事業内容

- ①総合相談窓口として、相談受付、訪問等による被災者の生活状況の確認・見守り、課題把握とその対応（専門機関へのつなぎ等）
- ②健康づくりやサロン活動等の実施
- ③コミュニティづくりのコーディネート、住民主体の取り組み支援

### 山都町地域支え合いセンター職員

センター開設当初は生活支援相談員3名で活動を開始し、翌年1月からは9名体制で取り組みました。平成30年は4名、平成31年からは3名と、生活再建状況に合わせた人員配置で支援にあたりました。

職員採用の資格・職種の限定はありませんでしたが、それぞれ看護師、訪問介護員、介護福祉士、社会福祉主事の資格・経験がありました。又、社会福祉協議会職員も支援業務にあたりましたので、支援活動そのものも地域の受け入れもスムーズでした。



復興支援としていただいた「鬼に金棒人形」と生活支援相談員



## 個別支援 活動内容

平成28年度

《訪問回数 612回》

○訪問活動：支え合いセンター設置周知と被災状況把握

- ・被害の大きかった原地区は全戸、他は町からの情報をもとにまず半壊以上の全世帯を訪問しました。不在宅にはチラシをポストに入れ2回目に訪問カードを入れその結果、電話連絡で近況を知らせて頂きました。又、ご近所や区長さん・民生委員さんからの情報で、安否確認がとれました。
- ・被災名簿にない世帯についても、ブルーシートがかかっている等外観で被災がうかがえる世帯や、指定避難所に長期にわたり避難されていた方、あるいは地域から得た情報や訪問世帯のご近所などへ声掛け訪問をさせて頂き、被災状況・生活再建についてや生活の困りごとの聞き取りを行いました。
- ・町外のみなし仮設に住む被災者については、自宅訪問のほか、職場が町内の方には職場へ出向いたり、住宅の手続きなどで山都町に戻られたときに面会することで状況確認をしました。



センター開設当初  
地域支え合いセンターについて説明をする生活支援相談員



センター開設当初はごあいさつ程度であったが、訪問回数を重ねることで、顔なじみとなり話す内容も深みを増す。

訪問カード			
月	日	曜	時 分頃
山都町地域支え合いセンターより お伺い致しました。			
その後、お変わりありませんか。 何かございましたら、お気軽にご連絡ください。			
山都町地域支え合いセンター ☎ 0967-72-2626			
訪問者 _____			
訪問者 _____			

訪問カード

### 訪問時の被災された方のつづやき

- ・地震は大変怖かった。みんな同じ怖い思いをしたので避難所生活も助け合えた。心強かった。
- ・支援を受けることがありがたい気持ちとものたない気持ちそして、受けることができない方に申し訳ない気持ちととても複雑。
- ・自分よりひどい目にあっている人たちがいるから我慢しないといけない。これくらいは頼らず自分で何とかしなければいけない。
- ・同じように被災しているのに再建支援に対して不公平感を感じる。うらやましく思ってしまう。いけないこととはわかっているのだけれども。
- ・高齢なので、これからがとても心配。
- ・仮設住宅の勧めはあったが、期限がある。高齢なので自分たちの体力を考えて再建は納屋改修を選択した。

## 平成29年度

《訪問回数 2,650回》

- 被災から1年経過した生活状況の聞き取りや見守り・声掛けを行い、生活支援希望などの相談を受け、専門機関や民生委員さん等へつなぎ、困りごとや孤立、不安解消にあたりました。生活再建については、状況を把握し、支援策などの情報を提供したり、専門機関へつなぎなど対応しました。高齢世帯については、別居子供さんなどへ状況を伝え一緒に検討して頂くようつなぎました。
- 被災したことで発生した課題や、被災がきっかけでこれまで隠れていた生活課題が表面化したことを生活困窮者等自立支援事業、権利擁護事業、介護保険事業、障害者自立支援事業など様々な制度や専門機関につなぎ、制度で対応できない場合には、社協がこれまでに構築してきた家族を含む地域見守りネットワーク支援につなぐことができました。
- 弁護士説明会開催：原地区区長さんと共同で開催しました。無料弁護士相談の活用や弁護士への相談の仕方、相談会開催場所の紹介などを日本司法支援センターの担当弁護士に説明して頂き、相談窓口の選択肢を広げ、実際に後日相談につなぐケースもありました。（7月開催）
- 「山都町今後の住まいの意向に関するアンケート調査」（山都町独自）を半壊以上の世帯261世帯を対象に実施しました。被災後1年半を経過した状況を整理し今後の支援についての検討資料としました。《10月実施 回収率64%（半壊解体以上の回収率81%）》
- 再建に向けた個別相談会実施：アンケート結果等をもとに対象者を絞り込み、再建に向けた相談を熊本県住まいの再建相談室より来て頂き土日を含む10日間実施し、再建の支援としました。《1/15～1/24 相談会対象85世帯、相談会利用43世帯》
- 地域の活動に参加し、そこから個別の情報を取り個別支援へとつなぐことができました。

## 生活再建 現物支援

被災された方に対し、生活必需品や生活再建に必要な品物を、様々な団体からの暖かい支援をいただきました。その情報提供や申請手続きのお手伝いを行いました。

軒下避難支援



納屋を改修しての生活

屋根裏の隙間風は、極寒の山都町ではつらい



屋外に設置された仮設トイレ  
夜間は懐中電灯が必要であるため  
ソーラーパネルを活用した電灯を  
支援してもらい、熊本県支え合い  
センター支援事務所職員に設置して  
頂く。



八代たたみ

八代東ロータリークラブより新築戸建てに対し、抽選で8畳を贈答



くまもと災害ボランティア団体ネットワーク  
【KVOAD】による家電・備品等の支援



## 平成30年度

《訪問回数 1,491回》

○訪問対象者：半壊以上再建の進まない世帯や被災状況にかかわらず課題ある世帯を中心に全町民対象に訪問する

○支援内容

- (1) 状況把握（民生委員や地域からの聞き取りも行う）
- (2) 総合相談受付
- (3) 関係者へのつなぎ：専門機関、家族、商店、地域等
- (4) 再建に係る情報提供
- (5) 再建に係る支援金手続きの勧めや手続きの支援
- (6) 相談会同席
- (7) 専門機関と同行訪問（調整）
- (8) 個別検討会開催
- (9) 町の相談会調整協力（家族の調整）
- (10) 現状分析

※被災から2年を経過し再建状況二極化に対する支援となりました。建物の再建が済んだ後の事務的な手続きが進まない世帯への支援、建物の再建が進まない世帯への支援において、共通する点として、理解をしていただくための説明支援に時間を要しました。納得していただけるよう専門機関と同行訪問や相談会同席、申請に必要な書類の案内または家族にも協力していただけるようなつなぎや相談日程調整等を行いました。合わせて進まない背景にある生活課題を掘り下げ、情報共有をはかるため民生委員さん等からの地域情報を取り入れながら関係機関での検討会議を行い課題解決に取り組みました。

※建物に関しての再建が落ち着いた世帯においても、その後の暮らしぶりには目を向け地域の関係性を生かした見守り活動ができるようつなぎをし、通常の見守りに移行できる環境整備に気を配りながら支援をしました。

## 令和元年度

《訪問回数 652回》

○訪問活動：再建・生活状況の把握

○つなぎ活動：再建に向けた情報提供、関係機関や親族へのつなぎ

地域支え合いセンターの関りを、通常の見守り活動へシフトするための連携を強化

○見守り活動：生活状況・健康状況など継続的見守り

仮設に住み残った高齢者のみ世帯は、一区切りがついたという安堵感とともに、被災から4年が過ぎ年を重ねていることを実感される様子がかがえ、町営住宅化した仮設住宅の新たな住人との関りにくさや、空き部屋を寂しげに見つめている状況がありました。

## 令和2年度

《訪問回数 307回 令和2年12月末現在》

○訪問活動：生活再建支援金未申請世帯（生活再建未確定）と継続支援が必要な世帯を中心に活動

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため玄関先や電話での対応としました。見えないものに対する恐怖や新たなストレスを抱えられた心情をうかがいこれまで以上に心身健康面の配慮が必要となっていることを受け、今後の見守り活動において地域の協力者を増やしていけるよう関係者への声掛けも行い、通常の見守りにシフトすることに努めました。

又、他町応急仮設住宅を活用した新しい町営住宅への勧めなど、一旦再建された方に対しても、現時点での暮らしぶりをうかがい、新たな情報提供を行うことで少しでも生活の困りごとが少なくなるように支援を続けました。

## 地域支援 活動内容

### 平成28年度

《支援回数 46回 985人》

◎新たなサロンの立ち上げ・既存のサロンなどの充実支援

- ・ 応急仮設世帯の希望をもとにサロンの立ち上げ準備をしました。
- ・ 既存のサロンに参加し、健康支援や子育てサロンを盛り込み充実を図りました。
- ・ 千寿苑に長期避難していた方の発案で同窓会を行い、それぞれの近況を報告し合う機会を提供できました。人はそれぞれに様々な事情を抱えていますので、集いの場は居住する地域に限らず色々な種類の集いに参加できることの必要性が見えるものとなりました。



#### 参加者の声

- ・ 地震後は夜を一人で迎えるのが怖かった。余震が頻繁にあった頃はとりにいる人と手をつないでおさまるのをまっていた。
- ・ 頼れる身内がない者にとっては避難所はありがたかった。
- ・ 離れて暮らす息子を安心させるために避難していた。

### 平成29年度

《支援回数 110回 1,813人》

◎サロン等の運営協力

○支援対象：応急仮設、他山都町全域

既存サロン等支援、新規サロン等立ち上げ支援

- ①レクリエーションや手工芸
- ②健康体操や健康講話
- ③地域の支え合いについての話
- ④遊具・血圧計等の貸し出し
- ⑤ボランティア調整
- ⑥サロン立ち上げのための相談対応・内容企画・呼びかけ チラシ作成協力

### 平成30年度

《支援回数 82回 1,671人》

◎サロン等の運営協力

○支援対象：応急仮設、他山都町全域

既存サロン等支援、新規サロン等立ち上げ支援

◎サロン交流会開催

### 令和元年度

《支援回数 65回 1,161人》

◎サロン等の運営協力

### 令和2年度

《支援回数 17回 240人 令和2年12月末現在》

◎サロン等の運営協力

※新型コロナウイルス感染拡大予防対策として、集わなくてもつながりあう工夫について各サロンリーダー的な方へ他地区の活動内容の情報提供やサロン開催時の注意点などを伝える支援を行いました。

## サロン等立ち上げ支援 原地区 応急仮設住宅



応急仮設住宅生活が半年過ぎたころの1月に全世帯（6世帯）に集まっていたいて、近況についてお話を伺いました。「とんとそばにおっとな、地震のこつで改めて話ばする機会はなかつたなあ。仮設に住む者ならではの思いもある。昼は若つか者は誰もおらんけん淋しかばい。時々集まるとよかね」という感想を頂いたことが発端となりサロン立ち上げの支援が始まりました。

地震当時は、どうでしたか？  
地震の後は、いかがお過ごしですか？  
今、どんなことをしたいですか？



## さくら会誕生 平成29年4月

支え合いセンター声掛けで原コミュニティセンターに月に1回程度の集まりを数回設け、毎月集まっていきたいという皆さんの思いから「さくら会」が発足（桜の咲くころであったため）しました。

支え合いセンターは企画のお手伝いをさせて頂き、日程決めや会場の押さえ、参加呼びかけは、皆さんで行われました。



熊本県防犯協会の方も巡回訪問時に参加

ブドウ狩り（入佐地区へ）

つつじ シャクナゲ を見に 蘇陽へ

応急仮設の内3世帯が再建され応急仮設を出られた頃、地域のサロンに移行となりました。もともとのつながりはあるため別段問題はありませんが、取り残され感は否めず、その点については、個別の支援を強化しました。時間の経過とともに皆さん年も重ね体力や気力の低下もあり、今後を考えることも避けたい心情は、いくらなじみの地域であっても語り合うことは難しいことがうかがえました。

## サロン立ち上げ支援 滝下地区

平成29年度

第1回滝下交流会を10月5日開催しました。この地区は被災後一時孤立状況になった地域で、訪問支援を重ねる中、隣接するが異なる区であるため一堂に集まることがなく、しかも移動支援がないと集まらない状況でした。そのような中、希望を叶えたいと会場提供をするなどリーダー的人材はあるもののその先が上手く進まずにいるという、実現に向けて苦勞されている状況をつかみました。そこで地域支え合いセンターが支援に入り開催することができました。

サロン等の立ち上げを実行する際に、公的な支援が少し入るだけで話が運びやすいことが見て取れ、こういう場合の地域支え合いセンターの活動は大きいことが解りました。



案内ちらし



強い雨が降ると寸断される生活道



10年ぶりの再会



場所提供者の藤岡さんご夫妻



部屋に入る前から話が弾む参加者



手づくり料理を持ちよっての茶話会



記念に1枚ハイポーズ



滝下地区へ移住した方も参加

## 既存サロン等支援

山都町の場合、被災によるコミュニティの崩壊は免れていました。震災前から存在するサロン等地域の集いに参加させていただき、被災状況確認や被災者情報を得たり被災者支援情報を提供したりする機会としました。たわいもない会話の中に、当時の恐怖や孤独感、これからの暮らしに対する不安などの言葉が聞かれ、罹災認定が出ていないだけであって、表面では見えずらい被災状況が聞かれ、改めて山都町全ての人々が被災者であるということが見える時間となるとともに、これらの困難な状況下において今後ますます互いの支え合いの重要性を確認できる時間となりました。

## 生きがい



## 健康



## 子育て

被災直後、生後20日ほどの乳児を抱え避難生活をされた時、夜間のミルクを作らなければならないときやぐずって周りに迷惑かけないように車に移動したことや、避難する際の準備物も多く大変であること、非常事態の小さな子供の対応の困難さなどの会話から、周りの理解や誰かの手助けがあるとありがたい、そのために日頃からのお付き合いを大切にしたいという気持ちがうまれる時間になりました。



子育てセミナーなどの集まりに出かけ  
情報収集及び被災者支援情報提供

## 高齢者生きがいサロンと子育てサロン交流会



見知らぬ関係であるが自然と抱きかかえ  
「こぎゃんこもしてって、恐ろしかめにおおたねえ」「お母さんたちも大変だったろねえ」と声をかける高齢者

## サロン交流会

サロンを開催されている地区の方やこれから立ち上げたいと思っている方に集まって頂き、健康体操・制作活動等の体験や意見交換会をしました。サロン運営について参考となるものを持ち帰り自分の地区のサロン充実をはかりたい、小さな単位のサロンを立ち上げたい、お年寄りを楽しませるといふより、まずは自分たちが楽しむことが長続きの秘訣かもしれないなどと意欲向上の様子が見られました。





### サロン交流会のご案内

今回、サロン活動に取り組まれている方々の交流会を計画いたしました。お互いの活動を紹介したり楽しくしゃべってみませんか？また、楽しく取り組める手芸や体操も計画しておりますので是非ご参加下さい。

**日時：令和元年 7月 18日（木曜日）**  
13時30分から15時位まで

**場所：清和保健センター**

**内容：介護予防体操 簡単な手芸  
意見交換会**

申込期限：7月10日(水)までに別紙申込書に記入の上、各支部窓口へ提出下さい。

お問い合わせ先：山形県社会福祉協議会

本部(事務局)	881-3811 上巻城野山形町大字91	TEL 0967-82-2345 FAX 0967-82-2557
矢野支部	881-3516 上巻城野山形町字海232	TEL 0967-72-2211 FAX 0967-72-4341
藤原支部	961-3913 上巻城野山形町字500	TEL 0967-83-1751 FAX 0967-83-1752

案内ちらし



## ボランティア団体との連携

ボランティア協力校連絡会や山都町ボランティア連絡協議会役員会、各ボランティア団体の会議等に参加し、被災後の地域の支え合いのしくみづくりの重要性、サロン立ち上げ時の協力について意見交換をし意欲を高めました。

### 山都町ボランティア連絡協議会研修会

≪研修内容≫

- ・地域支え合いセンターについて
- ・自分たちにできる被災者支援とは
- ・ウルウルパック詰め作業



災害ボランティア活動支援プロジェクト会議



(支援P) 企業・社会福祉協議会・NPO・共同募金会協働で被災者へのお見舞いの品々のウルウルパック



ウルウルパック詰め・メッセージカード記入作業にあたって頂く参加者56名

### 参加者の感想より

災害支援活動には直接支援をする方、支援者を調整する方、支援者を支援する方、それぞれ支援の仕方がある。自分は高齢でもあり被災された方へ直接的な支援ができずもどかしさも感じていたが、今回の研修と活動とおしてこれからは自分にできる支援をしたいと思いました。私にもまだまだやれるという力が湧きました。



ボランティアさんの思いも合わせて、ウルウルパックをお渡しする地域支え合いセンター生活支援相談員

## 災害ボランティア フォローアップ研修

平成27年に災害ボランティアサポーター養成講座を山都町社協が開催しており、熊本地震においても、支援物資の仕分け、避難所炊き出し、がれきや被災した家財撤去搬送等の活動をしていただきました。フォローアップ研修では、被災後の対応など年々変化しておりますので、新たな情報提供と支え合いの意識向上の機会としました。

### 《研修内容》

- ・災害時の備えについて最新情報  
総務課 危機管理監
- ・災害時のごみ処理について  
環境衛生課

### 参加者の声

被災ゴミの取り扱いについて詳しく説明を受けることができましたので、今後の支援に活かします。



災害時便利グッズ展示とパンフレット配布



非常食試食



## ボランティア協力校連絡会

山都町内11校（令和元年より10校）のボランティア協力校の先生方と、活動内容情報交換を行うことを通じて、防災について、災害後の支え合いについてを考え合う機会としました。学校としては、地域とのつながりを密にとれる機会を多く持つようにしたいが、地域の情報が少なくコーディネートに苦慮するという意見から、社会福祉協議会の把握している地域情報の提供と学校との連携強化をはかり福祉教育にあたることの合意形成を取りました。



ボランティア協力校連絡会の様子



矢部小学校 千寿苑視察の様子

矢部小学校の皆さんと、指定避難所千寿苑の当時の様子や地域の方々が協力して災害復旧作業をされた事例からみてきた支え合いの大切さを学ぶ機会を得ました。被災後、災害復旧や職場で働く大人を気遣って不安な気持ちを飲み込み弟の面倒を頑張りながら留守番を務めたことや、避難所でお年寄りの方にお水を配るなどの手伝いをしたこと、これから大変なことが起きた時に自分で考えて行動できるように頑張りたいなど、山都町を支えてくれる力強い発言も聞くことができました。子供たちもしっかりと熊本地震を受け止め、大変ただけで終わらせず、この先の暮らし方を見据える力をつけていることが見て取れました。この力を、まっすぐ伸ばしていけるよう防災教育に努めることは重要です。



## ボランティア つなぎ支援（町外版）

全国各地各団体より被災した方々への励ましとともに頑張ろうメッセージを込められたお見舞いの品やイベントの申し出が県を通じて連絡があった際、受け入れのためのコーディネートやチラシ作成協力を行いました。

面識のないボランティア受け入れについては、トラブル等の発生も過去の被災地にて起きているため、慎重に対応しました。過去に甚大な被害を受けその時のご恩返しだというお礼と励ましの言葉を、地域の皆さんは「ありがたい」とかみしめておられました。支え合いセンターの支援は、このような体験を、次へのボランティアにつなげていくことでもあることが解りました。



落語家 月亭秀都氏



琉球ヴァイオリン 大城敦博氏

「がんばろう東日本・熊本！アート支援助成事業」

主催：特定非営利活動法人宝塚サージェリーネットワーク

平成29年度「がんばろう東日本・熊本！アート支援助成事業」  
**落語と琉球ヴァイオリン in 山都町**  
 日程：平成30年1月17日(水) 午後1時30分～3時  
 会場：山都町 原コミュニティ供用施設  
 落語：月亭 秀都  
 琉球ヴァイオリン演奏：大城 敦博  
 ボーカリスト：原 英司  
 ご支援をうって月に来てください！  
 (主催) 特定非営利活動法人宝塚サージェリーネットワーク  
 (協力) 宝塚市つなひらば 一般社団法人 豊田復興支援協会 つながり  
 山都町 地域支え合いセンター  
 ☎ 0967-72-2626

案内ちらし



竹峰流華峰会矢部支部からの慰問



熊本県ノルディック・ウォーク連盟による、ノルディックウォーク指導とポールの寄贈

## ボランティア つなぎ支援（町内版）

各ボランティアの方が企画される内容と受け入れ側の状況が合うように、細やかな打ち合わせが行われないと、せっかくの思いが台無しになる場合があります。してあげるといふ形にしたいというボランティアさんの思いと、情けをかけられたくない受け入れ側の感情とのつなぎ役は重要でありました。又、何かお手伝いをしたいと思いながらその機会を自分たちでは得られないというボランティアさんの活動の機会を創設する役割も担いました。



下矢部西部地区社協から慰問 七夕交流

以前より交流のあった地区から暖かい訪問を受け、仮設で初めて迎える七夕飾りを楽しまれ、又、6月の豪雨により至る所で土砂災害を受けた下矢部地区の方を気遣う原地区の方との交流は、互いに寄り添い励まし合う光景が見受けられました。



運動サポーター 『美輪』（運動サポーター養成講座受講後、気の合う仲間グループ結成以来、各地区の集まりに出向いて、なじみの歌に合わせた運動等を楽しく指導してくれます。）



矢部ゆいの会（ボランティア）  
有志でちんどんや結成して活動。歌や踊り、ハーモニカ演奏で忘年会に花を添えます。

# アンケート調査

## 熊本地震等での地区状況に関するアンケート調査（概要） 平成28年10月実施

### ●調査の目的

一連の熊本地震および6月の集中豪雨による地区住民への被害状況の把握を目的に、各自治振興会長および行政区長を対象にアンケート調査を行いました。

郵送により送付し、記入後、返送いただきました。

### ●回収率

自治振興会宛が28通のうち20通で71.4%、行政区長宛が145通のうち97通で66.9%の回収となり、郵送でのアンケートとしては、比較的高い回収率となりました。

#### 【発送・回収内訳】

発送先	発送数	回収数	回収率
自治振興会宛	28	20	71.4%
区長宛	145	97	66.9%
計	173	117	67.6%

### ●アンケート結果

・各地区の被災状況、被災後の生活状況や地区の行事への影響などをお尋ねしましたが、被害状況は、田畑や農道などの被害把握は区長などがされておられましたが、家屋被害は外観からはわかりづらい面も多く、把握が難しいことがアンケート調査よりわかりました。このことから、地域支え合いセンターの役割である訪問活動が重要であることが、見えてきました。

又、「地域での支え合いを充実させるために必要と思われること、これから考えたいことをお聞かせください。」の項目に対し自由回答で、いろいろなご意見をうかがうことが出来ました。この回答をもとに30地区福祉会を中心に地区別懇談会などの地域支援に取り組みました。

### 自由回答抜粋

#### ◆支え合いの意識・人材育成

- ・集落自治が残ることが大切なので、皆が出来るだけ参加できる様な場面が作れば良いと思います。支え合いセンターには、住民がやる気（やらされるのではなく）を起こさせる支援活動を期待しています。
- ・地区住民の話し合いとまとまりが必要。
- ・隣近所や家族が意識をもち、日々の行動をする。「向こう三軒両隣」挨拶や声掛けが当たり前出来る事。
- ・支え合いの充実には、日頃の近所付き合いや組織力が大事であり、地域住民の意識の向上が望まれると共に、行政に頼り過ぎない事が大切かと思われる。当振興区に於いては、区消防団・自主防災部との連携を図り、地域づくり及び支え合いにつなげて行きたいと考える。
- ・今後の世代人に地域のリーダーとなる人材育成をして地域が安心して暮らせるようにして行きたい。

#### ◆支え合いの仕組み、進め方

- ・地域づくりと町づくりを実践するために努力したいと思っている人が大半だろうと思うが、それを集約しきれない自分の能力を憂いている。役員に出てほしいと思う。住民は、要求は言うが自ら責任者になろうとしない、役員になり手なし。
- ・小地域単位の支え合いは行われています。そして今年の変遷地異でより深まっていると思われます。但し、私達の地区にはそれぞれの事情で組入りをしていない世帯が20軒ほどあります。その方達が地区の行事等に出てきやすい様声掛けには注意しています。これからも続けていきます。

#### ◆地域活動やサロン等での地域住民の交流によるまとまり形成

- ・一番の基準となるのは住民同士が顔を合わせる機会、情報交換やちょっとした悩みや打ち明け話等々私達の先輩方は日常の中で行っておられたと記憶しています。
- ・私の地区はとくに地域のつながりが強く、声かけ、ひとり暮らしの見回りなど、別に心配はない。とくにこの震災での消防の班員たちは二度の地震の際の声かけ、見回りを全戸数してくれた。感謝しています。
- ・地域全員が一人の人を思い、気を利かせること。一人の人も全員の人に気を遣って生活すること。
- ・宮祭り、彼岸ごもり等、季節ごとの行事は地域の皆さんとのつながり、支え合いの場として大事に受け継いでいかなければならないと思います。
- ・公民館を利用するような集まりができればと思っております。婦人部の活動。老人の憩いの場。
- ・部落の人に会う時は必ず声掛け、あいさつをやること。相手の心を知ること、対応が出来ると思えます。
- ・地域での支え合いの必要性を住民がどの位感じているのか・各自の体力の現況を知っておく事も必要。

(調査協力：有限会社ひとちいき計画ネットワーク)

### 山都町今後のお住いの意向等に関するアンケート調査（概要）平成29年10月実施

#### 山都町地域支え合いセンター調べ

##### ●調査の目的

被災後一年半を経過した状況を整理し生活再建状況把握と今後の支援についての検討資料とするため、山都町独自で被害状況半壊以上の世帯を対象にアンケート調査を行いました。郵送により送付し、記入後、返送いただきました。

##### ●回収率 64%（半壊解体以上の回収率：81%）

##### ●調査項目

###### 大項目

1. 世帯と住まいについて
2. 今後の住宅再建等の意向について

###### 小項目

生活再建に向けての「相談会の開催」希望の有無と内容について  
困りごと上位

- ・再建のための費用の準備が難しい。(補修・新築・擁壁修繕)
- ・自宅の敷地が安全かどうかわからない  
(震災前と同じ住所に自宅を再建してよいかわからない)

###### 自由記載抜粋

- ・解体跡地に猫を残してきていて、昨年より毎日仕事の昼休み・休日も通って餌やりに行っています。住宅では飼ってはいけないのですが、私も運転で事故でもおこしたら(71歳)免許取消になるのではと気を付けているけど、ストレスで疲れています。年齢的にも再建はしたいが難しいかなと。
- ・現在まで4～5件物件を見つけたが、中々自分達に合う物件が見つからない(物件が高かったり、大きすぎたりとか)。土地の評価をかえることや賃貸物件の一覧等の情報が欲しい。
- ・地元で土地を探しているが土地を売ってもらえない。土地はあるが整地基礎に多額の費用がかかる。役場で家が建てられる土地の情報はないのか？個人で土地の交渉をするにしても土地の値段が分からないので交渉できない。
- ・屋根を少し修理したいと思っておりますがお金が足りません。
- ・再建資金を5年以内で無利子で融資を借りられないか。ありませんか。
- ・修理費用が思ったより多くかかり、年金を取り崩しながら支払った。まだ雨どいの修理が終わっていません、いくらかかるか心配です。

- ・病気になったので資金関係等これから検討するにあたり不安がある。
- ・住宅は大規模半壊で解体したが、他の人は100万円来たとの事ですが私は50万円でした。そこが私にはわかりづらいです。
- ・県は国から交付支援金を熊本地震被害市町村に配分されたと報道で聞きました。山都町に配分された額の少しでも支援下されれば大変助かります。修理に。
- ・修理を業者に依頼しているがなかなか来てもらえず、冬季にずれ込むのが不安。
- ・住める部分は完了したが全体としてはまだある。業者が進めず、雨漏りがひどく二次被害。
- ・工事費が高いため。震災後、工事費が高い。いつできるか分からない。
- ・擁壁や石垣の修理できないと何も前に進まない。復旧工事を早くして欲しい。
- ・牛舎がブロックで出来ています。いつ壊れるか心配です。
- ・石垣の崩壊が心配である（自宅）。崩壊した場合は公共への損害が多大である。
- ・敷地に不安があるが、移築することも難しいのでこのまま住む事を選択した。何かある場合の不安はかかえたままである。

### アンケートから見えてきたこと

- ・生活再建について決めかねている世帯が多い
- ・資金繰り・敷地の安全性
- ・制度や支援内容が伝わっていないこと
- ・広報等に掲載することや個別に通知を出すだけでなく更に直接的に情報提供を手厚くしなければ町民には伝わりにくい
- ・相談会を希望する世帯が多数（希望件数50件 内資金関連 業者関連が多い）

### 相談会の実施

アンケート結果等をもとに対象者を絞り込み、再建に向けた相談を熊本県住まいの再建相談室より来て頂き土日を含む10日間実施し、再建の支援とした。あらゆる相談ケースに対応実績のある相談室の職員から専門的かつ的確な指示を受けることができ、今後のことを決めかねている方への大きな一助となりました。≪1/15～1/24 相談会対象85世帯、相談会利用43世帯≫

### 主な対応内容

- ・悩み事の整理
- ・申請時の必要書類確認
- ・該当する支援制度説明



相談会を実施したことにより、生活再建に対しての悩み事の支援につながりました。

- ・各種支援金未申請者に対し申請の手ほどきで申請完了や、新たな支援制度につながる。
- ・資金繰りで悩む方へ、各種ローンの組み方を説明し理解でき、相談へ行かれる。
- ・新築に対し悩む方へ、災害復興住宅展示会について説明を受け、見学に行かれる。
- ・相談会内容をもとに、家族と話し合いが具体的になる。



## 会議・研修

### スタッフ会議



- ・週1回開催し、訪問内容の情報共有を行いました。スタッフの意思疎通がとれ、問題意識の共有化と支援内容の向上につなげました。
- ・会議の中で上がった課題に対して、スピード感をもって関係機関につなぐことができました。
- ・県支援事務所や行政、県防犯協会の方等にも入っていただくこともあり、情報交換や研修の場となりました。

### 地区別連携会議

参加者：役場福祉係 保健師 社協 支え合いセンター

被災者情報交換や、関連した課題も確認できる機会となり、その場で専門機関へつなぎ同行訪問の計画を立てるなど、具体的な次の支援内容を検討することができました。



矢部地区



清和地区



蘇陽地区

### 連携会議

毎月役場担当課及び関係課に参加いただき、支え合いセンター支援状況・再建状況報告と事例検討を行ってきました。再建のめどがほぼつかれた頃から、支え合いセンターを閉所した後の支援についても検討を始め、通常の見守り活動へスムーズな移行を目的として、被災に特化した生活課題から日常の生活課題支援を行うことができるようにするため、連携会議の内容をテーマごとに研修する機会へと変えていきました。

### 連携会議（テーマ別研修）

平成31年度連携会議（テーマ別研修）実績

参加者：上益城地域振興局 熊本県地域支え合いセンター支援事務所  
役場 総務課 福祉課 健康ほけん課 建設課 税務住民課  
社会福祉協議会（テーマごとに関係課が参加）

内容

- 4月：担当課と打ち合わせ会議
- 5月：事業計画と連携会議計画について
- 6月：生活再建現状分析説明、生活支援体制整備研修
- 7月：生活困窮者自立支援事業並びに 地域福祉権利擁護事業 研修
- 8月：「こころとからだの健康に関する調査」結果報告 防災について 研修
- 9月：山都町内社会福祉法人連絡会 公益的な支援に向けて「食の支援」について
- 10月：介護予防事業 研修
- 11月：次年度 支え合いセンター事業継続について
- 12月：生活困窮者自立支援事業をととした各専門職等の連携の取り方について
- 1月：山都町内社会福祉法人連絡会 成年後見人制度について
- 2月：発達障害について 研修講師：熊本県北部発達障がい者支援センター
- 3月：まとめ 活動報告・次年度に向けた検討



発達障がいについて

## 山都町社会福祉法人連絡会 (11法人)

平成28年度は、山都町内の社会福祉法人にお声掛けをして、熊本地震被災を切り口とした意見交換の場を設け、今後も集って情報共有を行い連携をはかった取り組みをしていきたいという意見を頂き、現在年2回の連絡会を開くことが出来る様になりました。

内容は、社会福祉法人としての取り組みについての研修、困窮者等自立支援、障がい者自立支援、高齢者食の支援等、各法人の情報交換から行政との意見交換の場と広がっていきました。被災者支援において、障がい施設運営法人から判断能力が低い方の支援は、代わりに判断してくれる方の存在を確保することも必要ではないかと助言をいただきました。また保育所運営法人からは乳幼児の家庭環境の危惧についての情報もあり、あらゆる関係機関との連携が重要であることを認識し合う機会となりました。



県社協から社会福祉法人の取り組みについて講演

## 各種団体連携会議

内 容 山都町地域支え合いセンター活動報告  
熊本地震被災からの生活再建と、地域コミュニティの強化について、  
各種団体との連携の在り方と重要性を考える

参加者 区長代表 民生児童委員 30地区福祉会代表 山都町役場各課長・担当職員  
地域振興局 熊本県地域支え合いセンター支援事務所 山都町社協  
地域支え合いセンター 等 44名



### 意見交換内容

- ・生活のしづらさは一時的なものでもなく又公助だけでは限界もある、地域福祉に活かしていくべき。支え合いセンター職員はストレスをためないように。
- ・各課及び各種団体が連携して対応することは重要、駐在所も加えるといいと思う。
- ・町としては、復興基金について十分に検討を重ね有効に活用していきたいと考えている。
- ・上益城地域振興局から見て、山都町は個別的な支援ができており、かねての地域福祉の取り組みが生かされている、連携会議も充実していると評価している。
- ・県支援事務所としては、第一回目の各課連携会議で「地域力を上げる」という事を確認し、地域支え合いセンターの活動をスタートしたと認識している。在宅避難者の状況を把握し、再建困難な方を今のうちに方向性を定める支援をしないと、年も重ねてさらに苦しくなることが懸念される。
- ・社協として、国庫補助が終了しても、生活再建支援が必要な世帯には継続的支援が必要と考える。見守り活動を、地域の力をいかして一緒に支援していきたい。

## 職員研修

地域支え合いセンター事業説明会及び研修 平成28年6月～（熊本県主催）  
山都町職員など研修 平成28年8月（山都町主催 熊本県アドバイザー派遣事業）  
生活支援相談員養成研修  
基礎研修・分野別研修・管理者研修  
主任生活支援相談員研修及び連絡会  
ブロック別研修 ブロック別交流会  
地域支え合いセンター研修会  
生活困窮者等自立支援事業研修会  
生活支援コーディネーター研修会  
こころのケア研修  
被災地視察研修（宮城県 福島県 新潟県）  
地域推進フォーラム



各研修に参加し、支え合いセンター事業について理解し実際の支援の在り方の手助けとなり、職員の意識向上にもつながりました。特に阪神淡路大震災や東日本大震災被災後の取り組みをされた方々からの事例を通じた研修や、現地視察研修は大変勉強になりました。どの被災地もまだ復興の途中、一緒に頑張りましょうと力を頂きました。

## 事例発表

平成30年度の熊本県主催の地域支え合いセンター研修においては、山都町の活動報告をさせていただく機会に恵まれ、改めて活動についての振り返りと今後の課題が見いだせる機会となりました。熊本県内支え合いセンターの中で、被災規模が小さかった分、通常への見守り移行への取り組みも早くから行っていた点について評価を受けることが出来ました。



## 宮城県視察の様子



被災地の説明を聞く生活相談支援員



津波被害 女川町



災害公営住宅の説明を受ける

被災時と被災5年後の宮城の様子にふれ、地震と津波のダブル被災復興に向けた様々な取り組みを研修させて頂き、又、当事者の方からの励ましを受け力を頂きました。



## 地域支え合いのしくみづくり

### 地区別福祉懇談会開催



熊本地震を切り口に、地域の支え合いについて小地域別に話し合いを持っていただきました。

○参加者：地区福祉会長 福祉委員 民生委員・児童委員 老人会 シルバーヘルパー  
自治振興会会長 区長 公民館長 消防団 PTA 等

○内容：①震災後の地域の様子  
・被災状況や避難状況 ・災害復旧に向けた地域の取り組み内容  
②これからの支え合いについて

※災害時（非日常）は地域の支え合いが大切であったこと、それは常日頃の関係性が生きていたことを確認し、今後小地域での支え合いの関係性を充実・継続する事が重要であることを認識する機会となりました。

### 地区福祉会会長 代表福祉委員 民生児童委員役員 合同研修会



地域の見守りの要である方々に集まっていただき、それぞれの役割について理解を深めると同時に、どのように連携をしていけばいいのかを、熊本地震での体験をもとに地区ごとにグループにわかれて意見交換をしました。地区によって取り組みの差も見受けられ、各地で再度集まって話を深めたいという意見が得られました。

### 福祉委員等研修

## 「これからの地域コミュニティ形成」について 東日本大震災の経験から学ぶ研修に参加

地区福祉委員等：参加者 26名

「これからの地域コミュニティづくりを東日本大震災の経験に学ぶ」研修会に参加し、地域コミュニティの形成支援の手順と方法について学び、支え合いセンターとの連携について考えました。

参加者の声 経験から学ぶものは大きい。自分たちの地域に置き換えながら、できることを取り入れたい。

**山都町地域支え合いセンターからのお知らせ**

熊本地震からやがて1年  
各地域で見守り活動されている福祉委員さん、  
これからの地域の支え合い体制づくりについて  
ヒントを得るために一緒に研修会に参加しませんか。

・日 時：平成29年3月26日（日）  
18:00～18:00（開場12:30）

・会 場：TKFガーデンシティ熊本 3Fホール

・内 容：これからの地域コミュニティづくりを  
東日本大震災の経験に学ぶ（第二回）  
地域コミュニティ形成支援の手順と方法  
～東日本大震災の経験から～

◎基調講演 筑乎大学農学部 教授 広田純一氏  
◎パネラー 宝塚市社会福祉協議会 青森理事理事 佐藤博一氏  
筑紫市社会福祉協議会 事務局長 眞 保徳氏  
全国コミュニティサポートセンター 理事 亀田真弘氏

※パネラーは、熊本地震後、中島野村ふれあいセンターを拠点に  
支援活動された熊本地圏共同支援ネットワークの方です。

◎コーディネーター 熊本学園大学 社会福祉学部 教授 和田真氏

※参 観：千寿よりマイタクシーでお越しください。

★詳しいことは、支え合いセンターまでお気軽にお電話ください。

問い合わせ先  
山都町地域支え合いセンター  
電話 73-292929 担当 渡野



### 福祉委員研修

平成29年度は、浜町地区福祉委員交流会を浜町ABC地区と蘇陽高畑地区との意見交換を行い、サロン運営について学ぶ場としました。矢部15地区社協の代表福祉委員研修会という形態から地区範囲を限定し全福祉委員を対象としたことで、より具体的な意見交換となりました。又、別地区の方との交流を加えることで内容に広がりも見えました。サロンは活動することも大切だが、集まって互いの情報交換をしあい、困りごとなどへの気づきの場となったり、参加しない人への見守りにつながることが重要である事を理解する機会となりました。

平成30年度は、貸し出し用遊具を実際に使いサロン運営にいかしていただけるように企画しました。サロンは先ずは福祉委員さんが楽しめる会になることが大切であることを感じ取っていただける機会とし、サロン参加が増加すること、担い手不足の解消につなぐことを、開催目的に加えしました。

この福祉委員研修が、サロン交流会へとつながることになりました。



### 30地区福社会研修

地域推進フォーラムに30地区福社会会長さんに参加していただき、福島の仮設の自治会長の経験談から被災後の地域づくりについて学び、支え合いセンターとの連携の重要性を研修しました。帰宅車内で、参加者から感想などを頂くことが出来ました。



### 御岳女性部防災研修

自治振興区女性部の自発的研修会に参加しました。この地区は、社協が行って来ました地区別福祉懇談会の見守りについての内容を、災害時の場合を想定した形で小地域単位で取り組んでおられ、実際熊本地震の場合も避難所の開設・運営を独自で取り組まれました。このことを更に検証して今後の支え合いにつなげたいという内容の研修でありました。支え合いセンターは、このような先駆的取り組み地域について他地域にお知らせし各地区の活動の底上げ支援も行いました。



## 復興イベント

### 山都町福祉祭り

山都町社協は、毎年地域の取り組みの発表の場と地域の支え合いについて考える機会として福祉祭りを開催してまいりました。平成28年度からは、復興の意味も加え30地区福祉会による福祉劇の内容に熊本地震を織り込み被災時の助け合いや、かねてからの支え合いの重要性に触れました。又、熊本地震相談ブースを設け、来場者には、再建情報と支援物資の飲料水等をお配りするなど、幅広い世代に意識付けの機会となりました。



### 第6回町内・集落福祉全国サミット in 熊本・山都町 開催 平成30年10月27、28日

中山間地域では、急速な人口減少、少子・高齢化が進み、また過疎化やそれに伴う家族形態の変化により、集落機能の維持に影響を及ぼす課題となっています。一方、山都町では集落の文化や伝統を継承し、集落機能を維持していくため、集落で協力しながら持続可能な仕組みに変換していく、創意工夫や連携に溢れた実践があります。その実践に学び、住民主体による「やる気」と「元気」を町内、県内、全国に発信するとともに、熊本地震からの復興、復興からの道筋、そして地域支え合いから地域づくりへ繋げて行くことを目的とし開催しました。

※山都町内外の参加者の皆さんと熊本地震災害復興の中から生まれた支え合いや災害復興で見てきた元からある支え合いを評価し、今後の支え合いのありかたについて考える機会となりました。

参加者 熊本県外 延べ85人 山都町外 延べ83人 山都町 延べ640人



## 被災者の言葉

### 熊本地震をふりかえって

震災後、組全員で杉木の公民館での暮らし70日間、大変お世話になりました。その後も、何ヶ所かまわり暮らしてきました。公民館の堅い床張りで寝た事、寒かった事を思い出します。その間、町内はもとより県・県外からたくさんの支援を頂き、心から感謝しております。

7月1日より応急仮設住宅に住み始めました。住むところのできたので安心しました。ゆっくり寝るところができてとてもありがたく思いました。仮設での暮らしは大変な面も数多くありましたが、地域の方々に助けて頂きました。加えて、地域支え合いセンターの皆様が訪問して下さるようになり、一言声を掛けて下さる事で、元気をもらっていました。時には、頭の体操や体の運動などの機会を下さった事で、元気に暮らせたと思っています。ありがとうございました。

地震後、五つ年をとりました。これまでのご縁を大切にしながら、穏やかに暮らしていきたいと思います。

原団地 古閑 正雄

### 参考資料





平成28年10月より支え合いセンター発足以来4年半にわたり町民の皆様には私たちを快く受け入れてくださり本当にありがとうございました。

訪問を重ねるうちに気さくに心の内をお話しいただいたり、時には私たちにやさしい言葉をかけて下さり、お力添えを頂きました。地域支え合いセンターの活動を通して、常日頃の支え合いの大切さの重要さと、山都町にはその支え合いがしっかりと根づいていることを知る機会となり、大変貴重な経験をさせて頂きました。皆様との出会いに感謝いたします。

令和2年度を以って地域支え合いセンターは閉じますが、これからも社会福祉協議会は皆様とつながりつづけていきたいと思ひます。

山都町地域支え合いセンター 生活支援相談員一同

